



UEC 基金 (第I期) について



理事 (経営戦略担当) **木野茂徳**

電気通信大学では、2014年10月に第2回ホームカミングデーを、11月に第64回調布祭を開催いたしました。久しぶりに大学の恩師や同窓生らと旧交を温められた方々も多かったことと思います。本学は、創立以来96年にわたり、情報・通信・電子・メカトロニクス、基礎科学やコミュニケーションに関わる融合領域で、実践的能力を身に付けた優れた人材を輩出して参りました。そして、今「UECビジョン2018」の実現に向けて、学生・教職員のみならず、目黒会をはじめとする同窓の皆様を加えた“オール電通大”の体制で、～100周年に向けた挑戦～を続けております。

ご存知のように、国立大学に対しては、法人化を機に自律性が与えられると共に、運営財源についても自主性/自主調達率を高める (運営交付金を削減する) 施策がとられておりますが、なお「教育と研究の両面で、大学が自主的に、特徴ある人材を育て、社会に貢献する成果を出す」ことへの期待は高いものがあります。現在、本学には、人材育成に向けた独自の給付型奨学金制度として、学部生向けのUEC修学支援奨学金とUEC WOMAN修学支援特別奨学金がありますが、この財源が2018年度で底をつきますので、UEC基金でこの制度を引き継いでいきたいと考えております。また、高度技術者の育成と研究の質の向上にむけて、大学院博士課程の学生を支援する新しい給付型奨学金制度の設置にも、UEC基金を活用させて頂きたいと考えております。さらに、100周年に向けては、デベロッパーと提携し、教職員宿舎のある小島町地区に1) 海外留学生の参加を想定した「男子学生寮」、「女子学生寮」と、2) 企業や大学の研究者が集う「先端共同研究施設」とを建設するプロジェクトが進行しています。このプロジェクトを支援し、100周年キャンパスとして整備・運営してゆくにも、UEC基金の活用を計画しております。先端共同研究施設には、地域の企業や大学発ベンチャー企業にも参画頂き、連携と協働の「実践と学びの場」ともしてゆく計画です。こうした基金の使い道につきましては、ご寄附頂いた皆様のご意志を十分に反映していきたいと思っておりますので、ご寄附の際、あるいはその後でも、大学基金事務局までご意見を頂きたいと存じます。

UEC基金に対しましては、2014年9月末までに5,000万円を超える温かいご寄附を頂戴いたしました。心より、御礼申し上げます。本学は、引き続き、基金たより第4号で学長からお伝えしましたように、2018年3月末までの期間を UEC基金 (第I期) として、①給付型奨学金制度の充実と②100周年キャンパス整備・運営事業推進に向けて、10億円を目標とした募金活動を行って参ります。次代を担う学生さん達の学習支援強化に、将来の日本の競争力を担う研究の推進に、そして、本学が地域を・日本を元気にする大学となる活動に、UEC基金へのご寄附を通して、ご協力・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

寄附状況 (平成 26 年 11 月 20 日 現在) **775 件 51,274,577 円**

内 訳		
法人・団体	15 件	6,683,272 円
個人	760 件	44,591,305 円

UEC 基金にご寄附いただいた皆様のご芳名を web に掲載しています。ご協力に感謝申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

<http://www.uec.ac.jp/kikin/>

UEC基金への寄附で 母校を益々発展させて行こう!!



電気通信大学同窓会／一般社団法人目黒会 会長 野々村 欽 造

電気通信大学・大学院を卒業・修了し社会人となっている目黒会員の皆さまは、殆ど気づかずに大学の名前を背負い、時に大学のお世話になりながら社会に貢献し活躍しておられる事でしょう。大学は国立大学法人になって以来、国からの運営交付金が毎年削減されてきました。その中で、昨年度「研究大学強化促進事業」に全国の国公立大学の中から選抜された19大学の1つに選ばれた事は、極めて画期的な事でした。

一方で、大学改革の一環としてグローバル化、イノベーション機能強化も社会から要請され、「教育」「研究」を軸に多方面の活動が必須な状況です。これに鑑み目黒会は、大学の支援活動を多方面に渡って展開しております。例えば、会報誌の会員皆さまへの配送時に大学取組の資料を同梱、また国内外の支部活動を通じて直接会員の皆様に、大学にお願いして大学の現状を知る機会を設けています。

これから「研究大学」として「教育」「研究」をより発展させて、大学の存在価値を社会に訴求して行くには、運営財源の充実が課題であります。そのために大学内に設立された「UEC基金」は重要です。

特に、大学は「UEC基金」の第1期として100周年に向け2018年3月31日迄に10億円を目標に、1口5,000円で募金活動を行っております。寄附されると税控除も受けられます。目黒会は、「UEC基金」の支援活動を最も重要な活動の一つとして積極的に取り組んで行きます。大学の募金活動の具体的実行計画に基づき、目黒会は個人・法人の取り組みに全力を上げます。そして目黒会は、研究室のOB、サークルのOB、企業毎のOB、クラス会・同期会等と呼び掛けて行きます。法人には、より強化した取り組みの「UEC基金」募金活動で大学を支援して行きます。

目黒会員の皆さま、母校の益々の発展に向け「UEC基金」募金活動に大いに協力して行こうではありませんか。それぞれの立場で10口、20口、30口、…100口…と寄附して行きましょう。電気通信大学の存在価値がより広く社会に認識されていくでしょう。

第2回「電気通信大学ホームカミングデー」を開催

UEC基金高額寄附者に感謝状と記念品贈呈



UEC基金感謝状贈呈者（敬称略）

左から：江尻貞明、乙津祐一、杉山光裕、野々村欽造、
本多一顯、双峰通信工業株式会社、横河電機株式会社

10月18日に一般社団法人目黒会（同窓会）と共催して、第2回ホームカミングデーを開催し、約170名の参加者がありました。

全体会、研究室公開、キャンパスツアー、学長室公開、子ども工作教室、おもちゃの病院などのイベントやパネル展示が行われ、夕方には懇親会が開催されました。また、目黒会では、「UEC WOMAN 女子会」などのグループ会合や世代別同窓会が行われました。

全体会では、福田喬学長からの挨拶と講演、野々村欽造目黒会会長の挨拶、株式会社ユビキタスエンターテインメント代表取締役社長兼CEOの清水亮氏による講演が行われ、最後に、UEC基金に高額のご寄附をいただいた5名の個人と2社に感謝状と記念品を贈呈しました。

来年以降も開催しますので、大勢の方の参加をお待ちしています。

電気通信大学基金事務局

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1

TEL：042-443-5132（平日9時00分から17時00分まで）

FAX：042-499-4858

メールアドレス：kikin@office.uec.ac.jp



基金についての最新情報はwebをご覧ください

UEC 基金

検索